

新建あいち

2022.12月号

新建愛知支部事務局：株式会社 宮工務店 気付

〒486-0904 春日井市宮町1-11-25

URL <http://nu-ae.com> ホームページ(2022年4月～)

TEL 0568-34-7775 FAX 0568-34-7797

■ 建まちセミナーin 茨城のアフターセミナーに参加をして（甫立）

9月11日～12日「建まちセミナー2022in 茨城」に続く、

9月26日・10月3日・10月17日「建まちセミナー2022@オンライン連続講座」

「豊かさ再構築」を大きな柱に、コロナ感染拡大後、3年ぶりに集まってのセミナー、そしてコロナ禍で習得したZOOMを活用したオンラインの講座がひとまず終了しました。全体では213名の方が参加されました。

茨城セミナー参加 70名

第1回 9/26 乾康代さん 32名

第2回 10/3 藤本昌也さん 42名

第3回 10/17 岩崎駿介さん 69名 連続講座計 143名

・会員でない方も多く参加され、引き続き新建からの

情報を希望されている方もいらっしゃいます。

・講座を聴き、関連した場所の視察をする、そして多くの方が参加可能なオンラインで内容を深め、討議するという一連の流れをホームページや建まち誌などで報告をすることで、更に新建の活動を知ってもらえる機会にしたいと思います。

・「豊かさ再構築」各支部やブロック、分野別等でもいろいろな角度から深めていただき、交流ができれば幸いです。

YouTubeで見られます「20221017_岩崎駿介氏_豊かさ再構築オンラインセミナーvol.3」

・これまでのオンラインセミナーの経緯

・第1章 いま迫りくる多くの困難

・第2章 社会経済構造をみてみよう

・第3章 3つの価値体系

・第4章 未来への道

※新建tubeでも動画がみられます。

・大阪支部の山口さんが連続講座の最後として、冒頭で紹介したプレゼンを添付します。(別途添付 PDF)

■ 「ソウルの共有空間の再生」～居住福祉と生活資本の構築(147)

岡本 祥浩

2022年11月4日(金)にソウルで第19回日中韓居住問題国際会議が開催された。「これから居住戦略」をメインテーマに「環境」「技術」「社会」をサブテーマにして意見が交わされた。翌日は、都市中心部の環境改善と人々の触れ合いを実現したプロジェクトを見学した。その代表的なプロジェクトの「光化門広場」と清渓川をここに紹介しよう。

「光化門広場」プロジェクトは、左下の写真1である。もともとソウル中心部の広大な道路であった。現代に入り道路の中央部を広場にする「光化門広場」プロジェクトが始まり、2009年に完成した。今回は西側の道路(6車線)が閉鎖され、2022年8月に広場の拡張工事が終了した。写真1は広場が拡張された西側を示しているが、そこに立つと都市の空間が車から人に返されたようで、広いソウルの空を感じることができる。また、豊臣秀吉の朝鮮出兵に対峙した朝鮮水軍の李舜臣将軍の像と彼の日記が足元に設置され、歴史を体感できる。また、その先にはハングルを創製した世宗大王の銅像(写真中央で金色に見える)があり、光化門へと続く。

写真2は、都心に再生された清渓川である。かつてここは、清渓高架道路が清渓川にふたをして、一日平均十余万台の車が走っていたという。都市の高速道路を壊して清流に戻す工事が2003年7月に開始され、2005年10月に竣工した。清渓川は様々な河川の表情を楽しめるように流れを渡れるように石が配置された部分、河川敷が階段状になって座ったり水遊びができたりするようになった部分、滝のようになっている部分などと工夫されている。写真の部分はちょうど自然護岸風に創られたところである。河川敷もブロックを敷いたところ、自然の石を敷いたようにしているところなど多様である。いずれにしても汚水と汚染された大気から解放された河川空間は、老若男女誰もが楽しめる空間になっている。河川が復元して17年の年月が経ち、沿道の街路樹も大きく育ち、美しく色づいている。これらは都市環境の再生と人々の触れ合いの場のお手本だろう。

このような事業が都市空間を再生し、人々の暮らしを豊かにすることを期待したい。



写真1 光化門広場の李舜臣将軍の像、世宗大王の銅像、光化門(筆者撮影)

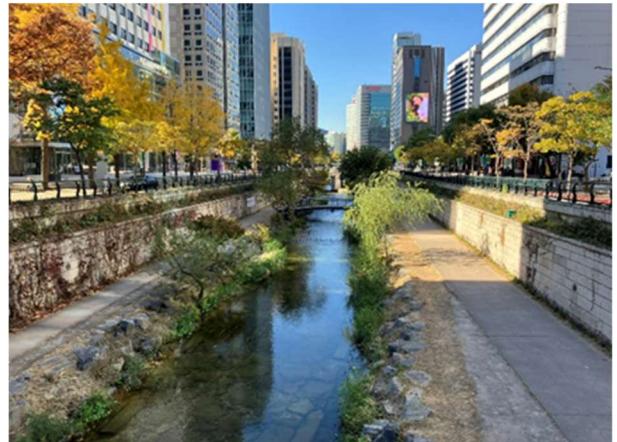


写真2 自然護岸風に創られた部分の清渓川(筆者撮影)

参考:早川和男(2006)『居住福祉資源発見の旅』(東信堂)、光化門広場-コネスト;<https://www.konest.com>

(中京大学教授、日本居住福祉学会会長、新建会員)

歴史探訪シリーズ⑭ 瑞穂区

失われた「田光ヶ池」と津賀田神社

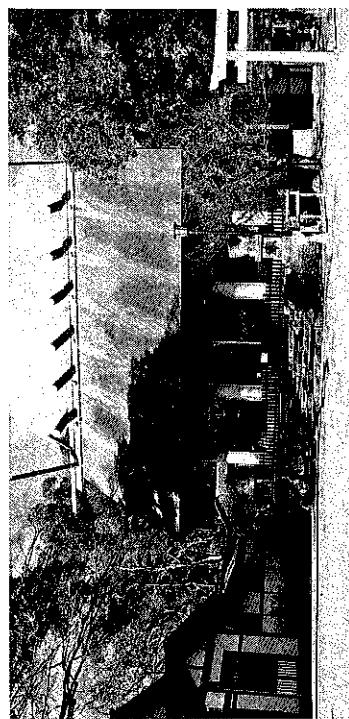
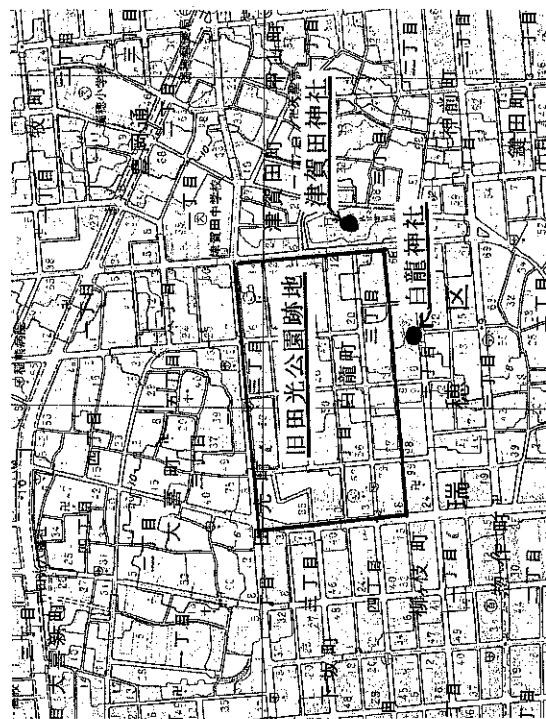
現在の白龍町付近には、古来から「蜻ヶ池」と呼ばれた溜池があり、周辺の田に水をうるおしてきました。蜻ヶ池の名称は北側の高台から見下ろすと池の形が足を開いた蜻の姿に似ていることからこう呼ばれましたが、後には田光ヶ池と呼ばれるようになりました。この池の東は松原が長く続く長森と呼ばれる丘になっていました。江戸時代に描かれた村絵図にはここに八幡社と書かれた神社がありますが、これは現在の津賀田神社に相応します。

この池と、津賀田神社のある森など、周囲の景観はすばらしく、1932年この付近の耕地整理が行われた時、灌漑の用もなくなつたこ

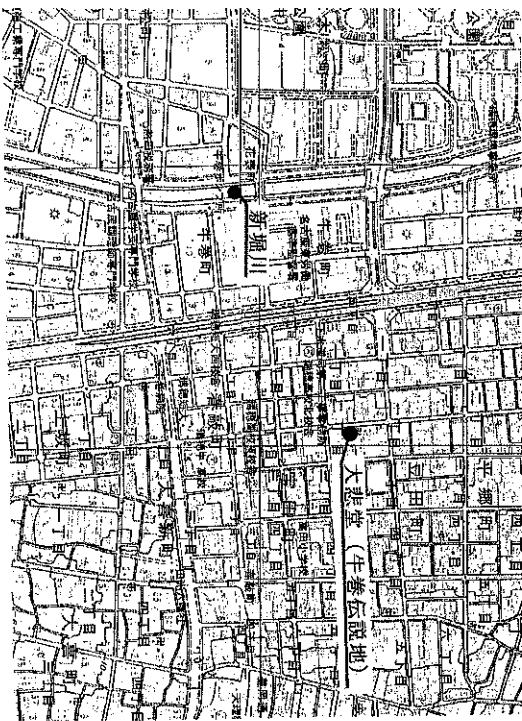
ともあつて、この地一帯は都市計画公園として整備され、人々の行楽の場として賑わいを極めました。

ところが、この公園も宅地開発がすすみ、5年後には周囲の丘をもくろし、池は埋め立てられ姿をなくしてしまいました。この工事をすすめる中で、事故にあつて命を落とす人が多くありました。これは池に住む白龍大王の祟りであろうと思う人があつて、公園の南側に社殿を建て、白龍の靈をなぐさめようしました。これが今の白龍神社です。

今では、この池の存在を知る人も少なく、当時の面影さえもなくなつていますが、白龍町・田光町の地名は今も残されています。



▲津賀田神社



精進川は、その水源を猫ヶ洞池の人々を恐れさせていました。1566年、大原真人武繼が熱田社から帰る時、この牛堀の淵に大蛇いのを用水落ち水や車道辺りの生活排水から流れれる悪水などであり、川幅も狭く、たびたび氾濫を起こすとともに大蛇を退治しました。付近の住民は大麥書びましたが、大蛇の祟りを見ておりました。このため川の拡幅と流路の直線化のための改修工事を行つことになりました。1910年には、現在大悲堂(豆田町1丁目)の大蛇の尾を埋葬しました。この蛇塚は、それた人々は蛇塚を築き、ここに見つけ、弓矢で矢離きばやに射かけられて流域の住民に大きな被害を与えていました。このため川の拡幅と流路の直線化のための改修工事を行つことになりました。1910年には、現在大悲堂(豆田町1丁目)の大蛇をよく巻き込むことがあってとなりました。この淵には大蛇が住んでおり、付近を通りがかつた

現在の牛堀付近は水が深くよどむ淵ら日々橋辺りは大きく東に流れ、改修前の精進川は現在の立石橋がなりました。この話に基づいていふといふと境内に残されていいます。牛堀の地名を変え新堀川と呼ばれるようになります。牛堀の淵には大蛇をよく巻き込むことがあってとなりました。この淵には大蛇が住んでおり、付近を通りがかつた

です。

■ 中部ブロック会議 経過報告

(報告:甫立)

10月23日(日)午後1時半から、石川県金沢市の金沢文化ホールで中部ブロック会議が開催されました。

石川支部の杉山さん、上田さん、富山支部の伊田さん、愛知支部の中森君と甫立が参加をしました。当初は、他にも参加予定の方もいましたが、季節の変わり目での体調を崩されたり、急な仕事の都合での参加が出来なくなった方もいましたが、夜の懇親会では、石川支部2名の参加者が合流をしまして、楽しい時間を過ごすことができました。

来年に延期になりました、石川支部での中部ブロックセミナーの目的を再度、確認してきました。セミナーを支部で開催するにあたり、石川支部の会員が継続的な集まりをすることによる、支部運営を組織で運営をすること。また、支部内での複数体制を会員が役割分担をして、協力してくれること。その先に、やりたい企画や見学会、勉強会、仕事を語る会があること。また、企画を計画することで、他支部とのつながりができるなど話をしました。夜の懇親会の参加者にもそのことをお願いしました。

翌日は、朝からホテル横にある近江町市場を散策して、杉山さんの新築現場2件見学をしました。石川支部の会員である大工の木村さんが現場について、施工での大変だったことを説明してくれました。



金沢文化ホール



2階会議室での「中部ブロック会議」



凍結のこともあり、高床式の現場



外断熱の為、サッシが内側にあり、止水の工夫

■ 新建愛知支部 2022年10月 支部幹事会だより

10月12日(火) 19:00~21:00(オンライン)

リモート参加者／入谷、奥野、黒野、中森、福田、黒野、壬生、甫立

- (1) 茨城セミナーのアフターセミナーをオンラインで開催します。新建 HP から、申込下さい。
 - (2) 中部ブロックセミナーを来年に延期しました。
 - (3) 中部ブロック会議を10月23日（土）～24日（月）に石川県金沢市にて行います。
 - (4) 職人不足で困らない為に、共同事業化の組織検討を進める事を決めて、源樹会と連携をします。
 - (5) 新建に協力してくれる施工者、職人、各種の営業さん等に声を掛けて、リスト化しています。
 - (6) 「防災マニュアル」連絡網を利用して、支部企画、拡大と更に積極的に声掛けをしています。
 - (7) 「建まち誌」への50周年祝賀広告を募集しています。支部でまとめて、本部へ連絡をします

会後の幹事会は、11月17日(木)、12月14日(水)、1月17日(水)午後2時と決めました。

■『暮らしにやさしい経済のはなし』

～物価高、上がらない賃金、円安などから経済を考える～

愛知県消費者大会主催の講座で、名城大学教授井内尚樹氏のお話を聞いてきました。

- ・日本経済の構造が変わらない限り、今の状況は変わらない。

2001年的小泉内閣の構造改革により、派遣が定着し、『企業栄えて、民滅ぶ』の状態。人への投資の抜本的強化が必要。

フランスでは労働者の連帯力が強いので、ストライキが頻繁に行われる。

水道・ガスのスマートメーターが普及しないのは、検針員の働き場所がなくなるから。
検針員の働き場所の変換。

- ・食料品の輸入依存をどう変えていくか？

木質バイオマス発電のチップは、ベトナムから輸入されている

鶏は、フランスではゲージ飼いから平飼いに変化している。卵はプラスチックのパッケージなしの計り売りが普通。日本は卵を出荷前に洗浄する手間をかけている。

この値上がりが続いているので、流通のあり方、売り方の見直しが必要ではないか。

- ・日本の江戸時代の循環型農業を取り戻す。

事例① 德島県上勝町…ゼロ・ウェイス宣言（無駄、浪費、ごみをなくすという意味）

出てきた廃棄物をどう処理するかではなく、そもそもごみを出さないようにしようという考え方。焼却・埋め立てごみができる限り減らし、なおかつ処理にお金がかからないようにした結果、生ごみは各自自宅で堆肥に。生ごみ以外はゴミステーションに各自で持ち込み 13 種類 45 分別する。運搬支援はするが、ごみ収集車はなくした。

事例② 福岡県大木町…生ごみなどを資源に。おおき環境センター「くるるん」

従来、焼却処理していた生ごみや海洋投棄処理していた浄化槽汚泥・し尿は、エネルギー資源として、また有機肥料として町で活用している。

事例③ 愛知県豊橋市…生ごみ回収 → メタン発酵 → エネルギー再生

平成29年から、バイオマス利活用センターにおいて、下水汚泥、し尿・浄化槽汚泥とともに生ごみの「メタン発酵処理」を行い、生成されたメタンガスを電力化している。発酵による残渣は、炭化燃料に100%エネルギー化されている。

- ### ・国の総合経済対策は有効か？

脱炭素社会を目指すために、必要なことは生活部面での「省エネ」対策の追求。

重要なのは全ての国民にいきわたる総合経済対策の必然性。公平・公正

消費税収入は21.7兆円（2020年）なので、「総合経済対策」の一般会計29.6兆円で

「消費税の減税なり、消費税の廃止」が可能。

(報告：奥野)